



# 朝日子だより

吉田高校 進路指導部

H24. 5. 15 発行

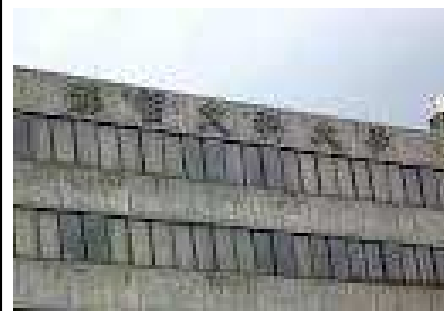
学生編 Vol. 11

吉高生のみなさんへ

私は現在、県内の公立大学で学んでいます。現在学んでいる学問や、地元の大学だからこそその利点、大学生活についてまとめました。是非、最後まで読んでください。皆さんの進路選択の手助けになれば幸いです。

都留文科大学 文学部 英文学科 在学中

宮下友里（平成20年度 普通科卒業）



現在学んでいる内容・・・

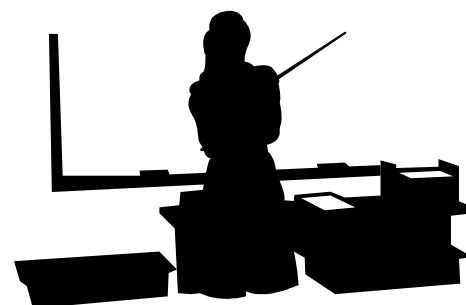
## 現

在私は文学部英文学科において英語を学んでいます。英文学科の学生は、アメリカ文学やイギリス文学といった主に文学を中心に学ぶ人と、応用言語学や社会言語学あるいは英語教育学といった言語を中心に学ぶ人に分かれ

ます。私は後者の言語専攻で、主に英語教育について学んでいます。

英語教育と一言と言っても漠然としすぎていてイメージがわからないと思うので、まず高校での普通の英語の授業を思い浮かべていただきたいのですが、みなさんが受けている1時間の授業も細かく見れば英語教育に関する様々な理論や教授法に基づいて構成されています。たった1時間の授業の中にも、理論や教授法を踏まえた上で先生方はたくさんの工夫やアイデアを盛り込んでいるのです。どのような英語の授業をどのように展開していくのが最も有効なのかという事が、世界的に長年に渡り多くの研究者によって研究されてきました。その研究は現在もなお続いており、私はこれらの事柄について学んでいます。詳しいことを書くととても長くなってしまっているので割愛させていただきますが、英語と一言と言っても留学して話せるようになることだけが英語の習得ではなく、大学ではもっと広い分野で且つ深い内容の「英語」について取り扱っており、それについて学んでいます。

更に、英文学科は英語以外にフランス語・ドイツ語・中国語・スペイン語・韓国朝鮮語の中からもう一つ外国語科目を履修することができ、私は中国語を選択し学んでいます。大学に入るまでは全く勉強したことがなく、発音は特に苦



労しましたが2年の夏休みには中国の西安に短期留学をするほどその魅力に取りつかれてしまいました。大学では主に北京で話されている普通話と呼ばれる標準語について学びました。

また、都留文科大学ではジェンダープログラムが充実しており、私はジェンダーについても学んでいます。ここまできちんとジェンダーについて学べる機会が提供されているところは日本全国の大学を見てもそうありません。近年世界的に認知されてきているジェンダーという問題について多くの講義を通し、様々な視点から考えることが出来るためこのプログラムは非常に価値のあるものだと思います。

## 大学の様子・・・

**都** 留文科大学は、車であれば吉田高校からも30分程度で行くことの出来る場所にあるので、ご存知の方も多いのではないかと思います。3年生が1月に受験するセンター試験の会場としても使われるので、みなさんには何かと縁のある場所と言えるかもしれません。大学のある都留市は、富士吉田よりも更に自然豊かな場所で、都会のように遊ぶところがあまり無い分、勉強にはもってこいの空間です。私立の大規模な学校等では大人数で講義を受けるというのが一般的ですが、都留文科大学における講義は比較的少人数クラスで行われるものが多い為、きめの細かいサポートを受けられるということも大きな魅力です。また、この大学は北海道から沖縄に至るまで日本全国から学生が集まっており、山梨というローカルな場所においても津々浦々の幅広い交友関係が築けるというのが特徴です。私は大学進学の際、元々は山梨を離れよう考えていましたが、実際に残ることになって案外地元も悪くないなと感じています。



## 大学入学前と入学後の印象の差・・・



大学に入る前は高校での勉強は大学入試のために使うだけであり、大学に入ってからには必要ないと思っていました。しかし、実際に大学に入ってみると高校で学んだ内容がベースになっていることが多く高校での勉強が大学での学びに大きく影響するという事を、身をもって感じました。もちろんこれは自分が大学で学ぶ分野によっても違うとは思いますが、基本的にはどの分野に進むにせよ高校までの学習は決して無駄にはなりません。私は教職課程をとっているため、中学や高校で学んだ知識が必要とされる場面がと

ても多く、今さらながらもっと昔からきちんと勉強しておけば良かったと思っています。

## 高校生と大学生の違い・・・

高校生と大学生の一番の違いは「自己責任」の度合いではないでしょうか。高校の時には当たり前だった時間割も大学には存在しません。どの講義を履修するか、どの資格を取るかといったことは全て自分で決めます。高校までは、先生方が手取り足取りサポートしてくれますが、大学では自分から動かなければ何も始まりません。寝坊して試験が受けられなくても、単位が取れなくても、卒業できなくても大学は助けてはくれません。基本的にどんな場面でも全てのことが自己責任です。それは大学生が社会人の一歩手前というポジションにあるからかもしれません。高校生の間は、日頃先生方に口酸っぱく色々なことを言われるのを少々鬱陶しく思うかもしれませんが、大学に入ってみるとそれがどれほどありがたいことだったのか自然と感じるようになると思います。脅しではありませんが、大学に入って甘い誘惑にのまれて墮落していく人はたくさんいます。自分に妥協せず、常に向上心を持って学んでいく姿勢がなければ、大学に行って得られるものはほとんど無いでしょう。反対に、自ら学びとっていくという強い意志や意欲があれば大学生活において多くのことを得られ、頑張ったら頑張った分だけ成長出来ると言えます。

## 卒業後の進路・・・

都留文科大学の学生の多くは教職課程をとっているため、他の大学と比べると教員志望の学生が大勢います。しかし一般企業への就職を希望する学生も数多く、公務員志望や大学院進学志望の学生も一部いるため、その進路はバラエティーに富んでいます。私自身は教員を志望し、現在勉強中です。



## 最後に吉高生に向けて・・・

「百

折不撓」の精神のもと毎日朝早くから夜遅くまで勉強と部活動に励んだ高校時代の経験は、それから先の自らの人生において必ずや大きな糧となると思

います。実際、私自身が吉田高校での日々を通して、どんな厳しいことにでも立ち向かっていける強い精神力が身に付き、もはや多少のことでは動じなくなりました。しかし、受験という大きな壁を乗り越えられたのは、一緒に戦う仲間や背中を押



してくれる先生方や家族の支えがあったからです。きっと一人では途中で投げ出してしまっていたと思います。今は辛く大変でも、明けない夜はないという言葉があるように、その努力はいつか実を結び、何年か後には思い出となり笑って話せる日がきます。仲間を信じて、先生方を信じて、そして何より自分自身の可能性を信じて、将来輝いている自分をイメージしながら粘り強く前進していきましょう。

